

令和6年度 文化スポーツ部組織目標

組織名	文化スポーツ部	部長	高田 章子
組織の目的・方向性	市民一人ひとりが心身ともに充実した生活を送ることができるよう、文化芸術・スポーツの振興を図るとともに、次代を担う子どもたちの豊かな感性や創造力の育成に取り組みます。 また、文化芸術・スポーツの持つ多様な価値を、観光や産業、まちづくり、国際交流、福祉、教育などの分野に幅広く活用し、まちの活性化を目指していきます。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標※	・文化芸術活動（鑑賞を含む）を行う市民の割合 ・文化的な環境への満足度 ・週1日以上スポーツをする市民の割合 ・スポーツ環境への満足度		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

文化スポーツ部組織目標

コロナ禍を経て、文化芸術・スポーツ活動の重要性が再認識され、コロナの5類移行に伴い、社会・経済活動が回復してきた現在において、以前にもまして文化芸術・スポーツ活動に親しみ、健康で心豊かに暮らせることが大切です。

文化芸術活動・スポーツ活動が再び後退・停滞することのないよう、令和6年能登半島地震で被害を受けた文化芸術・スポーツ施設の早期復旧に取り組むほか、多くの市民が文化芸術活動や、スポーツ活動に親しむ機会の充実を実感できるよう、文化芸術・スポーツ活動を振興していきます。

また、次代を担う子どもたちの豊かな感性や創造力の育成とともに、スポーツを通じて楽しさや喜びを得る機会を提供するための指導者の育成、アスリートの育成・強化に引き続き取り組むほか、市民の地域への誇りや愛着の醸成を図るため、地域に根ざした文化を適切に保存・継承していきます。

そして、文化芸術・スポーツの持つ多様な価値を他分野に幅広く活用し、まちの活性化に役立てていきます。

この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 市民が文化芸術を気軽に鑑賞・体験・創作・発表できる機会を提供するとともに、文化施設における様々な公演、展示等を通じて、市民の文化芸術活動を振興します。
- 2 スポーツを取り巻く様々な環境の変化に対応しながら、スポーツ環境の充実や指導者の育成など、ハード・ソフト両面から市民スポーツ活動を支えます。
- 3 子どもたちの豊かな感性や創造力を育むため、文化芸術を鑑賞・体験する機会の更なる充実を図ります。
- 4 能登半島地震で被災した歴史的建造物の復旧に向け各種支援を行うとともに、文化財等を着実に次代へ継承できるよう保存に向けた整備や調査を計画的に行います。
- 5 本市の特色あるみなとまち文化や踊り文化、鉄道文化などを磨き上げるとともに、国際・全国大会や合宿の誘致、イベント等の開催などにより、文化・スポーツを通じた交流人口の拡大や共生社会の実現を目指します。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	4
取組結果	1 新潟市美術展、にいがた市民文学などの公募事業を通じて、市民が創作・発表することができる機会を提供しました。いずれも応募者数が近年減少傾向にあるものの、新潟市美術展においては、美術講座の受講者が応募につながっている事例もあり、応募者が増加した部門もありました。にいがた市民文学については、学校単位での応募の有無により応募者数が大きく変動する傾向があり、高校の応募が1校だったことのも要因となり、今年度は目標に至りませんでした。 2 指定管理者制度により所管するスポーツ施設の管理運営を行い、各区所管課、指定管理者や関係機関と情報交換・連携しながらスポーツ施設の利用促進を図りました。コロナ禍以降、利用者数は大幅に改善しました。 3 次代を担うこどもたちの豊かな感性や創造力を育む取組として、プロオーケストラによる演奏会（オーケストラはキミのともだち）を開催するとともに、小学校などへのアウトリーチを実施しました。演奏会の参加者数は、目標値を大きく上回る過去最高人数（3,053人）となり、アウトリーチについては目標値同数の45校における実施を達成しました。 文化プログラム体験事業は、昨年度実施した中央区コースに加え、西蒲区や南区コースを追加し、コース内容の充実を図りました。プログラム実施後のアンケートでは、半数以上がプログラム体験後に文化・歴史関連の活動回数が増加しましたが、目標の「70%」には届きませんでした。 4 能登半島地震で被災した旧笹川家住宅や旧齋藤氏別邸庭園等の調査や応急修繕を行うとともに、国・県の担当部署と連携しながら被災文化財等への建築士等の派遣制度への調整など、文化財の災害復旧への道筋をつけました。 一方、旧齋藤氏別邸庭園の既往の整備事業についても、外部専門家の指導を受けながら、年次計画に従い、庁内関係者との調整を経て工事発注等必要な作業を進めました。 5 みなとぴあでは日本遺産「北前船寄港地・船主集落」と連動した企画展や関連ツアーを行い、多くの方にみなとまち文化を知っていただく機会の創出に努めました。また新津鉄道資料館では目玉展示の1つである鉄道シミュレータの更新に着手、年度内に稼働、公開を果たし、今後の誘客に向け着実な取組を進めました。 新潟シティマラソンを開催し、市民の健康保持・増進を図るとともに、新潟の特色を活かしたコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ることができました。また、姉妹大会の佐渡トキマラソンとの連携により、一層魅力的な大会を運営することができました。 共生社会実現に向けた取組である展覧会「あふれる思い ふれる気持ち2024」においては、障がい者施設への広報強化により応募件数が目標を上回りました。				
今後の方向性	人口減少や少子高齢化、価値観の多様化といった社会情勢の下、文化芸術・スポーツの分野においても公募事業の応募者数、文化スポーツ施設の入館者数、各種イベントの参加者数にも減少傾向が見られ、持続可能な文化芸術活動、スポーツ活動としていくための取組が必要です。市民が今後も引き続き、文化芸術活動や、スポーツ活動に親しむ機会の充実を実感できるよう、文化芸術・スポーツ活動を振興していきます。 次代を担うこどもたちの豊かな感性や創造力の育成とともに、スポーツを通じて楽しさや喜びを得る機会を提供するための指導者の育成、アスリートの育成・強化に引き続き取り組むほか、市民の地域への誇りや愛着の醸成を図るため、地域に根ざした文化を適切に保存・継承していきます。 文化芸術・スポーツの持つ多様な価値観を他分野と連携させ、文化創造都市としての本市の魅力を高め、交流人口の拡大、まちの活性化に役立てていきます。				